

## Hop Step Jump

6

授 業 づ くり ②  
道徳の授業づくり  
道徳の時間について

道徳が特別の教科として制定されようとしているまさに今、第 5 回初任研授業づくり②は道徳がテーマでした。講師の先生は、四天王寺大学准教授の杉中康平先生、小中に分かれての研修です。まず、みなさん異口同音に…

今日の講座は、とってもとっても面白く勉強になりました。杉中先生の話術に引きこまれあっという間の 3 時間でした。自分のこれまでの道徳の授業の中身のなさを改めて痛感し、2 学期からは今日教えてもらったことを取り入れていこうと思います。道徳は難しいけどすごく奥が深くて面白い。

今回は夏季休業中ということで 3 時間の研修でした。でも長さを感じさせず、「もっと聞きたい」という感想も多かったです。「杉中先生の話術に引きこまれ…」先生は実は落語もされるそうです。

道徳ってこんなに面白かったんだ!! その一言につけるような 3 時間でした。とても心を動かされ、短い時間で悩み、発見し、納得し、感動することができとてもおもしろかったです。難しい、としか思っていなかった道徳が、“やってみよう” “こんなに深めることができるんだ” と、私自身の考え方が大きく変わりました。

道徳に関する情報や理論、果ては評価なども大切なのですが、初任の先生方が『とにかく授業ができるように』を目標に内容を組み立てて頂きました。模擬授業もしていただき、とても具体的に、体験を通して学ぶことができたのではないのでしょうか。だからこそ納得、実感なのでしょう。

道徳の授業をどう進めていけばよいのかと悩んでいたのが具体的に教えて頂けてすごく学べました。また、模擬授業を見る事で、子どもへの発問の仕方や深め方を学ぶことができました。心の扉を開けたら、中へ入っていける様な発問ができる授業を心がけていきたいです。

まずは、『主人公が最も道徳的に変容したところはどこか?』をしっかりと押さえる。『行動と言葉をつかんで心を訊く』『同じ答えになる発問はしない』というシンプルだけれども強力な考え方で発問を考える。教材の内容項目を考える際には、当該学年だけでなく、学年間のつながりにも目を向ける。そして最後は、授業者自身の目標設定、その教材で目の前の子どもたちとどう勝負するのか、そして、勝負どころを決めたらぶれない。

道徳に限らず、どの授業にも共通するポイントであり、受講した皆さんもそれを実感してくれたようです。

まさに今道徳の授業作りをしているところだったので、とても勉強になり、すぐにでも指導案を考えたいと思いました。研修を受ける人（私たち）の活動時間がとても多く、とても意欲的に取り組みました。もっと教えてほしい、もっと聞きたいと強く思ったし、こんな風に思う研修は初めてです。本当にありがとうございました。

杉中先生は『道徳は授業のある意味古いスタイル、人間対人間の授業スタイルを一番色濃く残している、一番ライブ感の強い授業である』とおっしゃいました。

まずは、『心の扉を開ける』発問に始まり、『扉から中に入っていく』発問で、さらに深く心の中に入っていく。子どもたちの答えに応じて切り返し、子どもたちの発言をつなぎ、子どもたち自身が、お互いの言葉を聴き合いながら、自分の内なる言葉を紡いでいく。まさにライブであり、対話による学びの姿です。ここまで来れば、先生が最後にまとめる必要はないでしょう。感想を交流し、子どもたちの言葉だけで授業が閉じていきます。

道徳だけに限らず、総ての授業にまさしく活かせる研修でした。道徳のあり方、授業の進め方、特に、発問の仕方が大変勉強になりました。開かれた発問、閉じられた発問、発問の内容、授業準備の段階で今までより吟味していき、これからの授業に活かしていきたいと思います。

模擬授業では、最後に一つ質問がありました。「お友だちってどんな子?」。中学校では、「強い人と言えど?」というものでした。同じ質問から授業が始まりました。アイスブレイクの様に行われた質問でしたが、いわばこの授業の『落ち』につながる『つかみ』であり、1 時間の授業を受けた子どもの変容が集約される問いでした。

さて、残る課題はノートを活用でしょうか。一時間一時間の心の変容が記録でき、そして、その学びの履歴が残る『道徳ノート』。誰かチャレンジしませんか。